

平成29年度 事業計画

社会福祉法人 丹原福社会

事業所

頁

○事務所	1
○居宅介護支援事業所	2
○在宅介護支援センター	2
○特別養護老人ホーム	3
○ショートステイ	3
○デイサービス	3

職務目標

【経理】

『電子開示システム』など、新しい国の取り組みに対応できるよう理解を深めて行きたい。

【事務】

日々の業務の確認・連携を怠らない。

利用者様、家族様、電話での対応、スタッフに、尊敬と感謝の気持ちを持って接する。

【生活相談員】

利用者様の個々のニーズ・心身の状態・家庭の問題を踏まえ、利用者様と家族様の相談に応じ、安心して生活を送れるように環境を整える。
特養稼働率 100%を目標とする。

【介護支援専門員】

利用者様との関係づくりを継続し、日常生活の上で希望・要望に沿えるよう努める。

現場との連携をとり、利用者様の状況把握に努める。

【管理栄養士】

利用者様や職員の声を取り入れ、より利用者様の食生活が充実したものとなるよう努めまる。また、衛生面においてもユニットでの適切な予防・管理が行なわれるように、ユニットの職員と協力していく。

【機能訓練指導員】

ご利用者様の生活が豊かになる、身体的機能の維持と向上を目指す。

居宅介護支援事業所

目 標

平成 29 年度からの制度改正により、利用者への明確な説明に努め混乱を防止する。ケアマネ間での情報の円滑な共有、それぞれの援助技術のレベルアップを意識し、事業所としての支援相談の質の向上を目指す。

在宅介護支援センター

目 標

行政、事業所、民生委員、見守り推進員等との情報共有やネットワーク形成により、地域要援護者の早期発見と相談援助業務の効率化を図る。

在宅介護支援センター委託事業（いきいき百歳体操、高齢者カフェ、家族介護教室、新しい総合事業への対応）を通じ、地域住民との関係の構築と、さらなる強化を目指していく

①・・・年度終了時に達成したい目標 ②・・・3ヶ月以内に達成したい目標 ③・・・半年以内に達成したい目標

事業所名		水分	歩行	排泄	食事
特養 2階 ユニット1	①	ご利用者様に合った水分量を無理なく飲んで頂く。	月1回以上行きたい所へ行くことができる。またユニットでのレクリエーションに楽しく参加出来る。	トイレで排泄することができる。	安全に美味しく口から食事が続けられる。
	②	ミーティングでご利用者様に適切な水分量・カロリー・種類の見直しを行う。	活動の幅が広がることで意欲を引き出せるよう歩行や自走・体操のレクリエーションを継続できる。	必要物品・トイレ誘導時間・下剤・下剤に変わる方法はないかの見直しを行う。	食前の口腔体操の実施と食事時の正しい姿勢を提供し、誤嚥を防ぐ。
	③	見直した内容を一覧化し、全職員が適切に水分を提供する。	外出や歩行・自走・体操が無理なく継続して行えているか振り返る。	排泄表を作成し全職員が適切に排泄ケアを行うことができる。	いつも同じものを選ぶ方にも都度確認し、選んで頂くことでその時食べたい物が食べられるよう支援する。
特養 2階 ユニット2	①	一人ひとりの好みと、健康状態に応じた水分摂取を行い、無理なく楽しく摂取して頂ける環境の継続を行う。	利用者様に喜んで頂けるリハビリ、外出、レクリエーションを行い、楽しい時間の提供を行う。	トイレでの排泄、自尊心を傷つける事のない排泄ケアの継続を行う。	食事、おやつ作りを通し、継続して「楽しい」「美味しい」「幸せ」を感じて頂く。
	②	個々の好み、時間を把握し、ケアプラン表の見直しを行う。	レクリエーションやリハビリの希望を収集し、個々のケアプラン表を作成する。	排泄パターンを把握し、チェック表の見直し、ケア、声かけの統一を行う。	月1回の行事、食事レクリエーション、誕生日会を定着させる。
	③	ケアプラン表を活用し、職員間での情報共有を行う。	レクリエーション、リハビリの継続、見直しを行う。	食物繊維、乳製品を取り入れ、自然排便を促す。	取り組んだ活動の見直し、改善を行う。(レシピ、写真ファイルの作成を行なう)
特養 3階 ユニット3	①	個々のご利用者様の適正水分量に応じた水分を美味しく摂って頂けるように支援する。	個々のご利用者様に合った活動(散歩や外出、レク等)を行い、生活を豊かにするよう支援する。	トイレでの自然排便を継続する。	個々のご利用者様に合った口腔ケア、食事介助を適切に行い最期まで食事やおやつを美味しく食べて頂けるように支援する。
	②	前年度に引き続き、個々のご利用者様の必要水分量の見直しを行い、水分提供表の作成を行う。	施設内で行うレクリエーションの定着を目指す。(他ユニット連携)	毎月、排泄チェック表を見直し、適切なトイレ誘導が行えているかを確認し、変更があった場合は速やかに共有する。	個々のご利用者様に合った口腔ケア、食事介助の方法を検討し、ケアの統一を図る。
	③	認知症の症状により水分摂取が困難な方への水分提供の工夫を行い、改善に取り組む。	散歩や外出のレクリエーションを企画し、実施する。また同時にアルバム作成をし、ご利用者様・御家族様と思い出を共有する。	下剤の必要性を再度理解し、必要に応じた下剤の使用またはそれに変わる方法をその都度検討する。	スタッフ全員が統一したケアを行い、ご利用者様の変化に応じたケアを検討し、実施する。
特養 3階 ユニット4	①	ご利用者様の好みに合った水分補給を安らぎと楽しみを感じて頂きながら提供する。	ご利用者様のADLを把握し生活リハビリと外出レクリエーションの中で歩行・活動量のUPを目指す。	排泄リズムを整え、個々に合った排泄ケアを行う。	エト炊飯の活用方法を工夫し、家庭的な食事の風景を感じて頂けるよう支援する。
	②	おやつ時を中心に、手作りジュースのレパートリーを増やしてゆきスタッフ全員で取り組めるよう定着を目指す。(好評な物はメニューに加える)	各、ご利用者様の残存能力を全スタッフで周知(毎月のミーティングでの修正)し生活リハビリに取り組む。外出レクリエーションのための希望の聴き取りと計画の定着。	排泄用具、排泄パターンの見直しと改善を行う。	ご利用者様のリクエストに応じた食事やおやつ作りを、ご利用者様参加型で毎月1回行う。
	③	手作りジュースの材料をご利用者様に選んで頂き、目の前でミキサーにかけ、飽きない水分補給を定着させる。	生活リハビリを実施し、ADLの維持と向上、外出レクリエーションでの気分転換で穏やかな心身の保持に繋げる。	スタッフ全員がパターンを把握し改善後も排泄ケアの見直しを継続的に行う。	食して頂く場所や環境作りにも取り組み、美味しく食べていただくだけでなく幸せな思い出作りを提供し、継続していく。
特養 4階	①	ご利用者様主体の水分ケアを実施する。	各ご利用者様に合ったレクリエーション・余暇の過ごし方を支援する。	各ご利用者様に合った排泄ケアを行い、生活の質の向上を目指す。	ご利用者様が楽しんで頂けるようなユニット炊飯を行う。
	②	水分提供表を基に、ご利用者様の好きな種類・時間に水分摂取して頂く。	本人様・御家族様に趣味や好きな事を聞き取り、情報収集を行う。	個々の排泄ケア(時間・排泄用具等)の振り返りと改善	月1回のご利用者様との昼食作り・週末のおやつ作りを実施する。
	③	外出・レクリエーションを通じて、ご利用者様が楽しんで頂けるような水分ケアを行う。	レクリエーションの実施・評価を行う。	個々に必要な水分量の摂取、歩行・立位訓練を行いトイレでの排泄を継続する。	他の施設を見学し、配膳や食卓・環境面を工夫する。
ショート	①	ご利用者様の必要水分量を把握し、水分ケアを実施する。	ご利用者様のADLを知り、レクリエーションを提供する。	個々に合った排泄ケアの実施。	エトでおやつ作りを実施する。
	②	個々の好みを把握し、本人様や家族様の聞き取り、情報収集を行い、水分ケアプランの作成をする。	早朝の散歩の導入。残存能力を活かした運動を取り入れる。	個々に合ったパットの使用方法を考え、排泄表を作り把握する。	ご利用者様の食事形態を把握し、週一回実施する。
	③	水分ケアプランに基づき、個々の水分量をあげ目標水分量に近づける。	②の取り組み、実践計画を行うとともに、季節に応じた作品の制作活動の実施する。	②の取り組みに対し、評価、見直し、実践の継続を行う。	レシピ作成及び個々の好みを知り、おやつ作りを定着させる。
デイ	①	デイ内で目標水分摂取量800ccを継続し、自己選択できる水分の提供を行う。	デイ内での日常生活動作やレクを通して活動量を増やす。	排泄リズムの把握をして快適な排泄ケア	利用者様主体で楽しく食べられる食事の空間を作る。
	②	飲み物の種類を増やす等利用者様に選んで頂ける工夫をする。	日常生活動作や役割作りで活動を図るとともに活動量のあるレクの立案、提供する。	パット内に排尿される方や排泄頻度の多い方を中心に排泄シートを作成し尿意、便意の回復を目指す。	食を通して役割作りを促し楽しみや生きがいを感じて頂く。
	③	自由に水分補給できる環境と提供を継続する。	レクの評価、見直しをし利用者様が楽しんで行えるレクや役割作りを行う。	実施後の評価を再検討しご利用者様にあった排泄ケアを実施する。	②の取り組みを継続し利用様の楽しみや自分で出来る範囲が広がるよう食事スペースの環境づくりを行う。